

拠点病院利用の患者さんへの

「がん診療体験に関する実態調査研究」

ご協力をお願い

厚生労働省科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業
「がん対策を評価する枠組みと指標の策定に関する研究（研究代表者：橋本英樹）」

研究分担者

独) 国立がん研究センターがん対策情報センター
高山 智子



背景

- がん対策基本法（2007年4月）が施行され、第2期のがん対策推進基本計画（2012年6月）が策定されたが、がん対策そのものの評価はまだ十分には行われていない。
 - その理由の一つに、がん対策を測定するための指標が開発されていないことがあげられる。
- 一部の諸国では、すでにごがん患者の苦痛の軽減と療養生活の質の向上に関わる成果の測定に関する取り組みがはじめられている。
 - 英国、カナダ、オーストラリア（NSW州）においては、患者の視点によるがん対策の成果の測定の試みとして、がん診療体験の実態の把握が行われている。

目 的

1. 海外で使用されているがん診療体験調査をもとに作成した日本版の「がん診療体験調査」を用いて、複数の病院特性の異なる施設における患者のがん診療体験の実態を明らかにすること
2. 実態の把握および調査実施過程で明らかになる調査の実施可能性について検討することで、日本におけるがん対策の指標の一部となり得るか、調査の一般化可能性（汎用性）について考察すること

3

調査の位置付け

- ご協力いただける施設を10施設ほど募集しています。
 - 「がん対策推進基本計画」の評価指標の開発の一部として計画された研究です。
 - 今後、「がん対策推進基本計画」の中間評価として、全国のがん診療連携拠点病院で使用される可能性があり、本研究は、その前段階の**パイロット研究の位置付け**として、
 - 主要な質問項目を科学的根拠に基づく方法で抽出する
 - 拠点病院における調査実施環境整備の要件について明らかにすることことを目的としています。

4

対象と方法

● 対象

- がん診療連携拠点病院を利用する20歳以上の患者ご本人
 - 外来受診患者
 - 退院時の患者等

● 方法

- 調査期間内に、各施設の外来再診手続き・入院手続きをおこなった患者に対して、調査趣旨を説明
 - 自己記入式調査票の配布、郵送回収
- 自記式調査票への記入が可能な患者さんご本人にご協力をお願いします。

5

お願いしたいこと



本研究班の研究協力者として、以下ご協力をお願いします。

1. 貴院IRBへ申請する
2. できるだけ悉皆性のある対象者への協力のお願いをする
 - 例) 全診療科の外来診療受診の患者さんへの協力依頼が可能
 - 例) 退院時に調査票を渡すことができる、.. など
3. 貴院での調査実施環境に必要な要件を検討する

- 現時点では、“がんの患者さんだけ”にアプローチすることが難しいため、貴院で可能な方法についてご相談させていただければ幸いです。

6

“ご協力可能、検討できそう”
という方、施設がございましたら…

独) 国立がん研究センターがん対策情報センター
高山 智子

totakaya@ncc.go.jp

まで、ご連絡をお願いいたします。

- プロトコールをお送りさせていただきます。
- 貴院にお伺いして、具体的な進め方についてご相談させていただきます。

